

平成27年度後期 伊井小学校 学校評価書

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	27前 期結 果	27後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学力向上の推進	家庭学習の時間の目安(学年×10分)を設定し、家庭学習の手引きを活用し、家庭学習のあり方を工夫	目安を設定し、宿題以外の進んで学習に取り組みさせることができた。	教職員	90	80	100	家庭学習に対する取組と学年×10分の意識付けが全児童に浸透してきている。9月から全学年で始めた校内学力テスト(月1回)がよい刺激となり、勉強してよい成績をとりたいという児童の姿勢が多く見られるようになった。保護者にも、家庭でも学習に打ち込む児童の評価が向上している。	次年度も校内学力テストを継続し、さらに学力向上につながる内容を工夫していく。また、児童の意欲付けに繋がる評価の在り方を検討していく。家庭での学習課題については、これまで通り、基礎・基本的な学習の定着をねらいとし、工夫して出していく。児童クラブの児童が、きちんと課題に取り組んでいることが保護者に伝わる方策を考えたい。	・学力向上については先生方の努力が十分伝わってきて本当に感謝している。特に校内学力テストの結果を受けて満点賞のおしりなど子どもの次への意欲付けに繋がったことはよかったと思う。 ・重点単元について、高い数値が出ているが授業で分かっているのかという疑問が残る。分かったつもりでいるのかもしれない。授業でしっかり分らせることが大事だと思う。時間が経つと忘れることもあると思うので、反復練習も必要だと思う。また、学習に対して消極的な子の指導に工夫してほしい。
		家庭での設定した学習時間を達成できた。	児童	80	82	91			
		子どもは設定時間一杯家庭学習に取り組んでいた。	保護者	80	65	72			
	重点単元(教材)等を決めて研究の推進と魅力ある授業の創造	重点単元(教材)を決めて教材研究をし、魅力ある授業を実践できた。	教職員	90	100	88	どの項目についても目標指数に対して高い結果となって表れた。日頃から、教材研究を熱心に行い「分かる楽しい授業」をモットーに取り組んできた成果だといえる。	魅力ある授業を行うために、さらに教材研究を行い授業力向上に努力する。児童の中には、授業が分かったつもりになっているものも多く、授業の導入部分やまとめの部分で、既習内容を振り返る時間を持つとよい。	・家庭学習について、時間についてはその子に応じた時間でいいのではないかと。時間を決め残った時間の使い方の指導が必要。自学ならその内容の例を教える。ただ、家で学習する習慣がないと、上の学校へ行っても困難なことが多いので習慣づけはしておくといふ。 ・学年が上がるにつれて話す力は向上していると思う。 ・読書について、外で遊びたい子や活字離れの子に読んでもらうために、科学雑誌や体育関係の本など幅広く勧めるとよい。本は一生楽しめるものだからジャンルを増やして読ませたい。「なぜ、なぜ。」と聞く子には、それを調べる本があるとよい。何を読んでいいのかわからない子のためにランキングや店員の方などの勧め読書を紹介するのもいい。
		日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(低学年)	児童	80	97	97			
		日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(高学年)	児童		84	95			
		日々の授業が分かった。	児童	80	99	95			
	子どもは授業が分かっていた。	保護者	80	90	92				
	授業等での話し合う場の設定	授業や生活場面で話し合う力を高める指導を積極的に取り入れた。	教職員	90	100	88	話し合い活動を多く取り入れることで、児童の思考力・表現力が向上している。また、他の児童の考えを聞く態度、比べようとする姿勢も向上している。	次年度は、さらに児童が主体的に授業に参画するアクティブラーニングを授業の柱として取組、話し合い活動を継続して積極的に取り入れていく。	・読書について、外で遊びたい子や活字離れの子に読んでもらうために、科学雑誌や体育関係の本など幅広く勧めるとよい。本は一生楽しめるものだからジャンルを増やして読ませたい。「なぜ、なぜ。」と聞く子には、それを調べる本があるとよい。何を読んでいいのかわからない子のためにランキングや店員の方などの勧め読書を紹介するのもいい。
		友達同士で積極的に話し合う活動ができた。	児童	80	84	95			
	読書に親しむための週5日読書の推進	学校や家庭において、週に5日読書を勧めた。	教職員	90	100	100	学校では朝学習をはじめ、休み時間や授業の一部を読書に充てた取組が定着し、継続的に本を読んでいる。特に読書月間では、読書を積極的に勧めることができた。しかし、家庭ではなかなか本を読んでもらえず、家庭での読書推進が難しい。	学校では、今後も読書推進を働きかけていく。特に必読書については、各学年で目標を持ち、取り組ませたい。子どもたちは学校でよく本を読んでいるので、保護者向けの「家庭において読書活動が好き」というアンケート項目を見直す必要がある。	・学校での読書時間は増えているように思う。保護者の評価が低いことが気になる。親に時間的なゆとりがないとなかなか本に触れる機会がないのではないかと。新聞を利用したり雨の日には「いいこっさ」へ行ったりという休日の過ごし方もよいと思う。
		読書に親しむため、週5日読書に継続的に取り組んだ。	児童	80	81	82			
		各家庭において読書に親しむために、読書について話し合うなど働きかけを行った	保護者	80	47	61			
	子ども達の家庭において読書活動が好きになってきている。	保護者	80	58	64				
	読解力のスキルアップの取組	朝学習や学習の時間の読解力アップの活動の取り組みを進めた。	教職員	90	80	100	読解力の向上は、学力向上に大きく関わりをもつ大切な力である。今後継続してその力をつけるための工夫を行う。書くことについてはこれまでも、主な行事ごとに感想文を書いているが、継続して取り組むことが大切である。	保護者向けの「家庭で、読んだり書いたりすることが好きになってきた」という項目の好きという言葉は無理があるのではないかと。意欲的に取り組む姿勢が表れることが大切である。家庭で取り組める短作文や詩を書いたり、NIE学習(新聞を使った学習)を取り入れてみてはどうか。	・朝登校するとき、「これは何。」と聞いてくる子がいる。意外に今の子は当たり前なのが分かっていないように思う。一緒に大人が歩いて興味関心を伸ばすとよい。 ・探検隊について、前期と後期2回実施すると成長の跡が見られてよいと思うので是非取り組んでほしい。
読んだり、書いたりする活動に意欲的に取り組むことができた。		児童	80	89	84				
子ども達は、家庭で、文章を読んだり書いたりすることが好きになってきた		保護者	80	53	61				

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	27前 期結 果	27後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心を育む取組の推進	係活動やお手伝いに取り組もうとする子の育成を目指した取組	進んで仕事やお手伝いをする子を育てるために、継続的に指導をした。	教職員	90	100	89	お手伝いカードの取組により、児童の評価は高いが保護者の評価が低く、児童とのずれがある。昨年は家庭で働きかけたかどうかの評価であったが、今年は子どもたちが積極的に取り組んでいるかどうかを評価しているため、数値が下がったと考えられる。家庭で自主的に継続して取り組めるようにする必要があ	4月初めに家の人と相談してお手伝いの内容を決め、1年間継続して取り組んでいけるようにする。家庭と連携して児童の自主性が芽生えるよう長い目で見ていく。お手伝いカードは1ヶ月の取組を振り返って評価できるものにする。	・お手伝いについて、お手伝いカードの取組もあり、よくお手伝いはしてくれるようになったが、自分から進んでというのはあまりない。家庭内で子ども達が簡単にできることを見つけてもらうこと、家族全員で一つのことをやることに割り振って手伝ってもらうことにしてはどうか。子どもはしようとしているが親の評価が厳しいかもしれない。
		進んで仕事をしようとしていた。	児童	80	89	91			
		子どもたちが、家庭での役割分担や手伝いに積極的に取り組んだ。	保護者	70	49	49			
	言語環境の整備の取組	正しい言葉遣いについて常に指導を進めた。	教職員	90	89	100	昨年と比べて数値が上がっており、実際に正しい言葉使いを意識して話している児童が増えた。保護者の数値が多少下がっているのは、できている児童が増えたため、声かけする必要がなくなってきたと考えられる。	正しい言葉使いを心がけるように、継続して指導していく。また、道徳の時間などに礼儀や思いやりと関連づけて考えさせる取組をしていく。	・正しい言葉遣いは、テレビやゲームなどの影響で大変難しいと思う。 ・挨拶の習慣化について、以前に比べたらよくなって自分から言う子が増えてきたと思う。照れくさい時期もある。高学年になるほどでないのかもしれない。中学生になると部活などの指導で出るのかもしれない。伊井の中学生はよくしてくれる。素地が小学校の間についてきているのだろう。 ・挨拶も個人差がある。なるべく大人から声かけするようにしている。 ・伊井は地域性であたたくていい。「〇〇さん」と声をかけられたり村の真ん中で「おはようございます。」と挨拶をしてくれる。このまま継続してほしい。
		いつも正しい言葉遣いができた。	児童	90	87	90			
		子ども達に正しい言葉遣いの声掛けをした。	保護者	80	86	83			
	挨拶の習慣化のための取組	児童に対して挨拶指導を継続できた。	教職員	90	100	100	委員会によるあいさつ運動の取組もあり、全体的な数値は高い。しかし、あいさつ運動以外では進んで言わない児童も見られる。また、廊下ですれ違う時や午後のあいさつなどは意識が薄い。来年度は重点化して取り組んでいけるとよい。	4月にあいさつの仕方やルール作りを行い、人に会ったらあいさつできる子を目指していく。また、ビンゴやあいさつキングなど、あいさつ運動による評価の仕方を工夫したり、児童集会等であいさつをテーマにした活動を取り入れたりしていく。	・児童クラブで時に感情のすれ違いで、人のいやがることを言う場合がある。指導員が人のいやがることは言わないように注意している。 ・豊かな心を育む取組については、児童、保護者が一緒になって取り組み素晴らしいと思う。伊井の子は地域の方がどの子も我が子、我が孫のように接していただける地域性もあり、どの子も穏やかに感じる。児童を取り巻く私たち大人が優しい気持ちを持ち、一人一人の子どもの心を大切に認め、励ますことにより優しい気持ちや思いやる心、頑張る力、自己肯定感が育つのではないかと思う。
		「おはようございます」「ありがとう」等のあいさつを進んでしていた。	児童	90	94	92			
		子ども達は、「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていた。	保護者	80	94	86			
		保護者自身が「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていた。	保護者	80	96	96			
	教育相談の充実を進める取組	いじめや不登校等の早期発見のために、児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100	年3回のふれあい週間によるアンケート・個人面談や楽しい学校づくりに取り組んできた成果と考えられる。また、相談しやすい雰囲気や初期対応に心がけてきたことも挙げられる。	普段から注意深く現状を捉え、今後も継続して教育相談に取り組んでいく。校内での共通理解を図り、相談体制を強化していく。	・豊かな心を育む取組については、児童、保護者が一緒になって取り組み素晴らしいと思う。伊井の子は地域の方がどの子も我が子、我が孫のように接していただける地域性もあり、どの子も穏やかに感じる。児童を取り巻く私たち大人が優しい気持ちを持ち、一人一人の子どもの心を大切に認め、励ますことにより優しい気持ちや思いやる心、頑張る力、自己肯定感が育つのではないかと思う。
		日々の学校生活を楽しく過ごした。	児童	90	95	95			
子どもとの会話などを通して、理解しようとした。		保護者	90	97	95				
児童の創意工夫を生かした委員会活動の積極的な取組	委員会活動を子どもの創意工夫を生かした活動にすることができた。	教職員	90	100	100	各委員会アイデアを出したり自分の考えを話したりする様子が見られ、委員会発表も充実していた。後期は評価までに2ヶ月ほどしか活動期間がなかったため、児童の評価が下がっていると考えられる。	児童の主体的な活動を尊重しながら、さらに活発な委員会の取組が行われるようにする。	・全体的に消極的な子が多いので、いろいろな面で高学年が話し合って進めるような子どもの積極的な取組の工夫があるとよいと思う。	
	進んでアイデアを出して、委員会活動に取り組むことができた。	児童	90	91	88				

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	27前 期結 果	27後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心	思いやりの心を育成するための取組	相手のことを思いやり、親切にするよう働きかけた。	教職員	90	88	90	もちつき会や大なわなどのふれあい班活動で異学年と関わりをもつ機会が多く、やさしく接することができた子が多かった。「思いやりの町」を設置し、感謝の言葉を伝えるカードを貼ることで意識づけることができた。	ありがとう運動を効果的に取り組みながら、継続して思いやりを意識づける。道徳の時間や特別活動の中で思いやりの大切さを考えさせる工夫をしていく。	・マイペースな友達がいともまくフォローしているように思う。
		困っている友達に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(低)	80	81	83			
		友達や低学年の子に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(高)		84	88			
健康安全活動の推進	体力づくりを目指した伊井っ子タイムの記録向上の取組	業間活動の記録の伸びや達成感の意識付けを行った。	教職員	90	100	100	マラソンや大なわの業間運動は、意欲的に取り組んでいた。目標を掲げて毎回記録を記入することで、より高い目標をもって取り組もうとする児童が多かった。	継続してマラソンや大なわなどの業間運動に取り組みながら、体力向上に努めていく。職員の働きかけも工夫しながら取り組む。	・体力は子ども同士の遊びの中で楽しく関わって体を動かして刺激し合って向上していくと思う。体を動かしてほしいが、地域に戻るとできない。学校の方でゲームや遊びを通しての体力づくりをお願いしたい。昔からの遊び(缶蹴りやメンコ遊びなど)がよいといっている。
		業間活動で、記録が伸びるように努力した。	児童	90	85	90			
	基本的な生活習慣(就寝時刻)の指導と定着の取組: 低学年 =9:00、中学年 =9:30、高学年 =10:00	決められた就寝時刻を守ることができた。	児童	90	86	92	後期は児童の評価は高くなったが、保護者の評価は下がっている。冬休みの不規則な生活が影響していると考えられる。また、スポ少や習い事がある場合は就寝時刻を守り睡眠を確保することが難しい。	就寝時刻を守ることは大切さは理解し、意識している。スポ少等は関連機関から8:30頃の終了を呼びかけてもらえるといい。評価の際に9:00頃までやっているスポ少の活動日を除くことも検討する。近年の状況を踏まえて、ゲームやSNS等で遅くなることのないように働きかける。	・就寝時刻は結構守られていると思うが、スポ小の子どもの夕食はどうなのか、心身の健康面で心配である。指導者の方の事情もあると思うが、もう少し早く終わってもらえるとよい。
		子ども達は就寝時刻を守り早寝することができた。	保護者	90	80	75			
	うがいや手洗いを習慣化するための積極的な取組	必要な時に、うがい・手洗いがしっかりとできた。	児童	90	86	89	年々児童の評価が上がってきており、うがい・手洗いの励行を意識して取り組むようになってきた。しかし、保護者の評価が低く、家庭で自主的に取り組めていない児童もいると考えられる。	風邪やインフルエンザが流行する時期は、特にうがい・手洗いの励行を促し感染防止に努めていく。保健だより等で保護者へ呼びかけ、継続して取り組んでいく。	・うがい・手洗いについてやはり保護者の評価が低い。外出したらうがい手洗いを習慣づけてほしい。こども園では必ずしている。最近の若いお母さんの意識は高いと思う。外気に触れたら手洗いうがいをする習慣づけの継続を図ってほしい。特にインフルエンザがはやっているから、家でも厳しくしてほしい。
		家庭生活においても、手洗いうがいがしっかりとできた。	保護者	80	65	66			
	学校生活・家庭生活での安全を意識させる取組	生活の安全について指導を進めることができた。	教職員	90	100	90	医療機関にかかる大きなけがは1件のみであった。廊下を走る児童について、委員会で良い歩行児童を評価するなどの取組をし意識づけを行った。	学校生活の中で安全に過ごすために、危険な行為や廊下の歩行についての指導を継続していく。	・医療機関にかかったけがは1件だったとのことで安全面での指導に力を入れていただき安心している。
安全に気を付けて活動することがよくできた。		児童	90	91	90				
家庭生活における安全について、よく声かけができた。		保護者	90	93	94				
健康安全	清掃活動の充実を目指した取組	清掃活動に精一杯取り組ませるために積極的に声かけや指導を行った。	教職員	90	100	100	時間いっぱい掃除に取り組もうとする様子が各清掃場所で見られた。毎日の振り返り活動やお掃除メダルの取組により定着してきた。しかし、中には膝について拭く児童や、掃除開始前にざわついていたり遅れてきたりする児童も多少見られた。	年度初めに掃除の仕方を確認し、高い意識をもって清掃活動に取り組めるようにする。掃除開始前は心を落ち着かせる時間を確保できるように働きかけていく。	・清掃当番の子はいつも一生懸命にやってくれる。掃除の必要性や気持ちよさもしっかり理解しているのだろう。伊井の子ども達の真面目さが伺える。
		毎日、口を閉じて時間いっぱい清掃活動に取り組むことができた。	児童	90	93	93			

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	27前 期結 果	27後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
二学期制を生かした教育	児童生徒と触れ合う時間を増やしたきめ細かな対応	日常の対話により児童生徒の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行うことができた。	教職員	90	100	100	全教職員が、日頃から児童への声がけや児童の様子をよく見よう心掛けており、児童にも「気にかけてもらっている」という気持ちが生じている。	気がかりな児童ばかりでなく、目立たない児童に対してもしっかり実態を把握し、個に応じた指導を継続的に行う。	・「先生が自分のことを見てくれている」の項目の評価が高いことはすばらしい。いつも見られているという安心感が見られてよい。 ・先生と二人だけになるという場があるのもいい。1対1対応が特別な親近感を持ち、そのことが忘れられない思い出となるのでそういう場も設けてほしい。
		先生は学習や生活の中で自分のことをよく見てくれている。	児童	90	96	92			
	二学期制に伴い長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立て	休業中にきめ細やかな学習指導を行った。	教職員	90	100	100	夏季、冬季休業中での学習課題の量、内容についてしっかり検討して出すことができた。全学年において、夏季休業中に学習会を実施し、苦手な単元の補充学習や、既習学習を活用する基礎・基本的な課題を提示して取り組ませることができた。	学力向上に繋がるような長期休業中の課題についてさらに工夫する。 理解が不十分な単元や学習に遅れがちな児童への充実した学習会の在り方を考えて実施する。	・長期休業中に学習会を行ったことが効果的であったと思う。 ・親は子どもの苦手な部分を把握しているので、個人的な対応やアドバイスをお願いしたい。
		夏休みや冬休みは、しっかり課題に取り組むことができた。	児童	90	96	99			
資料の工夫と児童や保護者に対する丁寧な説明	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行うことができた。	教職員	90	100	100	保護者会前に成績を取りまとめ、通知表を渡していないので、他の資料を用意したり、できるだけ児童の様子を詳しく伝えようとしていたりすることが、保護者に伝わった。	今後も、児童の様子について伝えるための資料を工夫し、丁寧な説明を心がける。 学年によって実施しているテストファイルを作って終わったテストを整理してはどうか。		
	個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	90	89	95				
学校間・保小連携の推進	異学年交流活動の推進	交流活動時に熱心に取り組むように声かけを行った。	教職員	90	88	90	今年度は併設幼稚園がなくなったが、子ども園の年長さんは、低学年の行事と一緒に参加することが多く、保小連携がよく行われた。校内においても、授業の成果発表やふれあい班(縦割り班)活動などで、交流がよく行われている。	子ども園と低学年との交流をさらに充実あるものとするために、一緒に取り組める活動について再考する。ふれあい班活動は、これまで通り継続して活動し、高学年のリーダー性を育て、伊井の文化を守っていくとよい。	・幼保連携が始まり、園児や職員も小学校への理解が深まった。保護者の方にもその様子や内容を伝えることで小学校に対し理解と安心感を持たれたようだ。 ・低学年は高学年へのあこがれが生まれるので交流はよいことだと思う。 ・伊井の子は6年間変わらず人間関係がどうしても固定化される。是非他校との交流を持ちスキルを増やしてほしい。
		交流活動への参加について、仲良く活動することができた。	児童(低)	90	92	97			
		交流活動への参加について進んで取り組んだ。	児童(高)		86	91			